東葛しぜん観察会（第 52 回研修会）

身近なトンボを良く知ろう

田中玉枝（松戸市）

日　時：　2009 年 8 月 2 日（日）　10～15 時
場　所：　大柏川第 1 調整池緑地及びビジターセンター（市川市）
講　師：　互井賢二氏（行徳トンボ研究室）　参加者：　指導員　23 名

ここ市川市の大柏川第1調整池緑地は面積約8.7ha、国の「水辺プラザ整備事業」の制度を活用して千葉県と市川市が協力して住民に潤いと安らぎを与える親水性のある施設として調節池の掘り込み部分に、大小 15 箇所の池を整備し、特に生き物の生活空間を大切に管理運用されています。トンボにとっても色々な環境の池があり住みやすそうです。

今回は夏から秋に良く見かける身近なトンボを知るための研修会です。空はあいにくの曇り空、講師の互井さんのレクチャー後、網を片手にトンボ捕りに出かけます。網を持つととたんに子どものようになる指導員もいて、捕れた捕れたと楽しそうです。

ここの目玉はチョウトンボとかで、直ぐに見られたそうですが、あっという間に姿を消してしまいました。オスは翅の色は表面が青紫、メスは抹茶色と説明は聞いていましたが、私は残念ながら見られませんでした。

水草の中にいたのはアジアイトトンボ、腹部の 9 節がきれいな水色。アオモンイトトンボより小さく、後でアオモンイトトンボの 8 節のブルーとの比較もできました。水辺に多いサンカクイはイトトンボが好む水草とのことです。その後ウスバキトンボのオスとメスの違いや、シオカラトンボの塩から色と麦わら色の違いなどを確認し、真っ赤できれいなショウジョウトンボも観察しました。

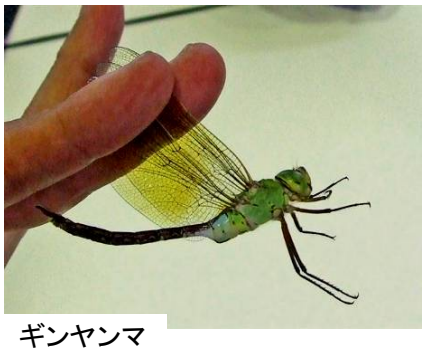
ぽつぽつ降り出したので、ビジターセンターで互井さんが羽化して 2 日目というギンヤンマを見せてくれました。プールのヤゴ調査から育てたものだそうです。普通プールにいるのは、タマゴをばら撒くタイプのアカネ類がほとんどですが、そばに木があって大きな葉などが落ちると、浮いた葉に産卵できるので、ギンヤンマなども生育でき、また天敵の少ないプールはトンボにとって育ちやすい場所といえるそうです。ただ残念なことにほとんどは掃除で流されてしまうのが現状のようです。

午後は「小学校 3 年生」バージョンの話と前置きがあり、3 億年前に約 70 cmものトンボの仲間が地球上にいたことが化石で分っている。そこから分かれて色々なトンボが出現した。世界で一番大きなトンボはテイオウムカシヤンマ、小さいトンボはハッチョウトンボ。トンボは世界に 5,500 種、日本には 214 種いる。イギリスの 52 種と比べるといかに日本に多いかが分る。そのほかにも産卵の仕方によりタマゴの形状が違うなど、標本を見ながら盛りだくさんの内容で、「3 年生！恐れ入りました！」という感じでした。

まだまだトンボの世界は奥が深く、次は「4 年生」に昇級出来るかが心配ですが、また機会があれば企画したいと思います。

ウスバキトンボの特徴は～

古代トンボのお話し


ギンヤンマ